

北海道浮魚ニュース

令和 6（2024）年度 4 号

2024 年 6 月 4 日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎4 月までの本州日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況

国立研究開発法人水産研究・教育機構より、4 月までの本州日本海におけるスルメイカの調査結果と日本海沿岸域の漁況について情報が調査参画機関に提供されましたので、概要をお知らせします。

- ・ 2024 年 4 月のスルメイカ漁期前分布調査では、分布密度が前年および過去 5 年平均を下回った。
- ・ 2023 年 10 月～11 月のスルメイカ稚仔調査では、幼生の平均採集尾数が 2022 年並みであり、過去 5 年平均を下回った。
- ・ 2024 年 1 月～3 月の小型いか釣り漁業等によるスルメイカ（生鮮）の漁獲量は日本海沿岸域全体で前年および過去 5 年平均を下回った。

1. 2024 年 4 月のスルメイカ漁期前分布調査結果

2024 年 4 月に日本海中部海域（新潟県沖～鳥取県沖）で実施されたスルメイカ漁期前分布調査^{*1)}の結果では、分布密度の指標となる CPUE（釣り機 1 台 1 時間あたりの漁獲尾数）は最大でも 0.64 尾であり、前年と異なり CPUE が 1 を超える点はなかった。また、2024 年は漁獲の無い調査点の割合が 50%を占め、前年（12.5%）を上回った。全調査点の CPUE の平均値は 0.05 尾で、前年（0.63 尾）および過去 5 年（2019 年～2023 年）平均（2.28 尾）を下回り、2019 年以降最低の値であった。本調査から得られた 4 月の日本海中部海域におけるスルメイカの分布密度は極めて低かった。

*1) スルメイカ漁期前分布調査：自動イカ釣り機による釣獲試験。各調査点で夜間に 8 時間～10 時間の釣獲を実施。

2. 2023 年秋のスルメイカ幼生の分布状況

2023 年 10 月～11 月に実施されたスルメイカ稚仔調査^{*2)}では、1 調査点当たりの平均採集尾数は 0.07 尾と、2022 年（0.07 尾）と同様に低い水準で、過去 5 年（2018 年～2022 年）平均（0.29 尾）の 24%に留まった。

*2) スルメイカ稚仔調査：口径 45cm のプランクトンネット（網目合 0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で深度 150m から海面までの鉛直曳によって主に外套背長 1mm～3mm のスルメイカ幼生を採集する。

3. 日本海沿岸域におけるスルメイカ漁況の経過

2024 年 1 月～3 月の漁獲量は日本海沿岸全域で、前年の 52%、過去 5 年平均の 40%と下回った。海域別に見ると、本州北部日本海は前年の 81%、過去 5 年（2019 年～2023 年）平均の 52% となり、前年並みで過去 5 年平均を下回った。また、西部日本海では 1～3 月は前年および過去 5 年平均の 10%と、前年および過去 5 年平均を大きく下回った。

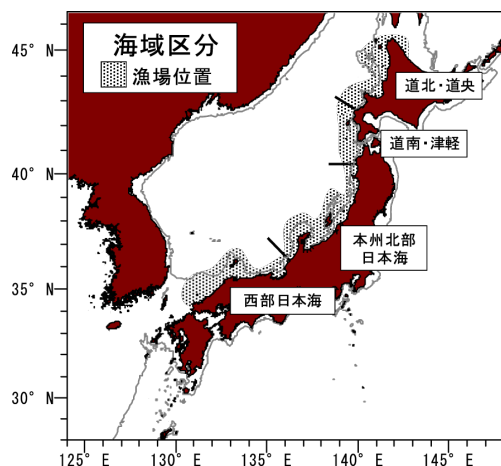


図 1 本資料における漁獲量の海域区分

道北・道央は宗谷～後志、道南・津軽は渡島、檜山、青森県、本州北部日本海は秋田県～石川県、西部日本海は福井県～長崎県をそれぞれ示す。

参考情報 2024 年度第 1 回日本海海況予報

2024 年度第 1 回日本海海況予報^{*3)}では、4 月中旬～6 月の対馬暖流域の表面水温および 50m 深水温はともに平年値（日本海海況予報における平年値は 1986 年～2015 年の平均値）よりも「やや高め」と予測された。

*3) https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/files/20240405_jpnsea-1st.pdf

今後の北海道日本海へのスルメイカ来遊状況に関しては、函館水試試験調査船金星丸により実施した 5 月下旬の日本海北上期調査（浮魚ニュース 2 号参照）および 6 月下旬に実施予定の日本海漁場一斉調査の結果も参照してください。また、漁期後半については 7 月に日本海スルメイカ長期漁況予報が発表される予定です。その他の情報とともに、随時浮魚ニュースでお知らせします。

（函館水産試験場 調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）